

令和3年度生駒市立病院管理運営協議会第2回会議録

- 日 時 令和3年11月30日（火）午後8時00分から午後9時45分
- 場 所 生駒市立病院7階 講堂・交流センター
- 出席者
 - (1) 会 員 小紫 雅史、遠藤 清、村木 正人、山上 正仁、佐野 いづみ、磯部 良和、岡島 保弘、森岡 文夫、中川 義三、田中 登志子
 - (2) 事務局 【生駒市】山本副市長、古川特命監、近藤福祉健康部長、石田福祉健康部次長、桐坂地域医療課課長補佐、奥野病院事業推進係長、高瀬係員
 - 【指定管理者】辻川看護部長、岸田事務部長、持田事務長
- 傍聴者 2名
- 会議の公開・非公開の別 公開
- 会議の内容

1 開会

【事務局（市）】 定刻になりましたので、ただいまから「令和3年度生駒市立病院管理運営協議会第2回会議」を開催いたします。

本日は過半数の会員にご出席いただいておりますので、「生駒市立病院管理運営協議会要綱」第6条第3項の規定により、会議は成立しております。

また、同要綱第7条の規定により本会議は公開としております。

本日の会議では、会議録作成のため録音させていただいておりますので、ご了承の程、よろしくお願いいたします。

次に、本日の配布資料等について確認させていただきます。会議次第、令和3年度生駒市立病院 中間報告書（案）の2点になります。全ておそろいでしょうか。

会議次第2としまして「会議内容の確認」について、事務局からご説明申し上げます。生駒市立病院管理運営協議会は、市立病院の管理運営に関する事項について会員の皆様方の意見を反映させることで、健全な管理運営及び市民参加の病院を実現することを目的として開催されます。

本会議において、皆様からのご意見及びご提案を求める事項は、生駒市立病院管理運営協議会要綱に定められており、頂いたご意見を元に、PDCAサイクルを意識した市立病院の継続的な業務の改善及び健全な管理運営を図って参ります。

それでは、会議次第3の「案件」に移らせて頂きます。

要綱第5条で「会長は市長、副会長は市立病院の院長をもって充てる」と規定しております。以後の進行につきましては、要綱第6条の規定により、会長が議長となりますので、小紫市長、よろしくお願いいたします。

【小紫会長】 皆様、大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。コロナが落ち着いてきたなど言うことで、市長メッセージという形で、「そろそろ町づくりの活動、地域の活動を再開していきましょうか。」「気を付けながら、ぼつぼつとやっていってもいいですよ」というメッセージを出して、生駒市消防のコロナの救急搬送専属隊を、全国に先駆けて我々はやっておりましたが、通常業務の負担がありますので、それを一旦解散しようということで、明日が実はその日なのですが。そんなことを言っていたら、オミクロンという新しい株が出てきたということで、どう

も間が悪いなど思っているところでもあります。

奈良県内は、非常に感染が落ち着いている状況ではございますけれども、先ほど、遠藤院長とお話していますと、3週間後またどうなっているかは要注意というようなお話も教えていただきました。そのあたりもみながら、どのくらい少し緩めていくか、どのくらい締めていくかということを実際に1日1日刻々と変わっていく中、対応しているところでございます。

3回目のワクチン接種券を今日から発送しているのですが、ワクチン接種やコロナの対応に、市内医療関係者や生駒市立病院の皆様大変お世話になっていることを改めて感謝申し上げたいと思います。

本日は、生駒市立病院の令和3年度中間報告書（案）について議論をいただきます。この中間報告書の段階のものを皆さんに見ていただくことで、令和4年度の事業計画を作っていく時の参考にしていただくということでございます。令和3年度の報告書が令和4年度になってからでない取りまとまらないということでございますので、中間報告書で今年の半期の傾向を見ていただきながら、令和4年度はこういうところに力を入れていこうとか、こういうところが課題だから集中して頑張っていこうとか。今回の中間報告書は、そのような意味合いがあるということでご理解いただけたらと思います。本日は、21時30分頃までを予定しております。ぜひ、皆さまには、闊達にご意見をいただきまして、コロナで大きく翻弄されたこの1年、2年でございますが、令和4年度はコロナが収束しているのかいないのか、どちらにしましても大きな節目の1年になりますので、ぜひいろんなご意見をいただきまして、事業計画につなげていただきたいと思います。何卒、よろしくお願い致します。

それでは、さっそく議論をしていきたいと思っております。今日は、今申し上げたように、案件は1つだけでございますので、令和3年度生駒市立病院中間報告書（案）が手元にあるかと思っております。こちらにつきまして、指定管理者から中間報告の説明を受け、市から取り組みの評価・課題の説明を受けてから、項目に従って、ご質問、ご意見をいただくという流れで進めていきたいと思っております。それでは、中間報告書（案）について、まずは指定管理者から説明をお願いします。

【事務局（指定管理者）】 それでは、令和3年度中間報告書について説明させていただきます。

1ページ、2ページの「診療科目」でございます。

診療科目につきましては、計画どおり16診療科でございます。令和3年4月に小児科の常勤医師を増員し、6月に脳神経外科の常勤医師を確保しました。また、月曜から金曜まで実施している総合診療科を8月から一般診療へ名称変更を行いました。

次に3ページ、4ページの「病床数」では、新型コロナウイルス感染症陽性患者の入院は、5階西病棟を引き続き、専用病棟として受け入れを行いました。また、疑似症患者の病床を5階東病棟と4階東病棟に各1床確保しました。4ページの補足説明欄にありますように、陽性患者の病床は、受入当初は12床でしたが、5月からは16床、また8月23日から20床に拡大して運用しました。

次に、5ページ、6ページの「人員体制」でございます。

9月末現在の常勤医師は22名となっております。グループ内転勤により脳神経外科1名、勤務希望者の募集により小児科1名、医局人事により形成外科1名が入職しました。また、看護師は、150名、その他といたしまして、薬剤師、理学療法士等を合わせ、128名、合計300名となっております。

なお、補足説明欄ですが、「看護師、医療スタッフ等の確保対策」の6項目に、前

回、会員の皆様から頂戴したご意見をもとに、職員満足度調査の実施を新たに記入させていただきます。

次に、7ページ、8ページの「患者数」でございます。

入院患者数は、1日平均103.0人、外来患者数は、ワクチン接種者を除くと1日平均219.5人、ワクチン接種者を含むと1日平均278.3人となっております。

8ページ補足説明欄にありますように、入院患者数につきましては、外科で新型コロナウイルス感染症の陽性患者を受け入れていることで増加しております。その他、診療科別で増減はありますが、合計しますと、前年度と比べ入院で、1日平均2.9人の増となります。外来患者数は、小児科医及び内科医がワクチン接種を行っているため、大幅に増加しています。その他診療科も、血管外科を除いては、前年度より増加しており、ワクチン接種者を含むと1日平均94.4人、ワクチン接種者を除くと1日平均35.6人の増となっております。年度計画と比較しますと、入院患者数は80.8%、外来患者数はワクチン接種者を除くと92.9%、ワクチン接種者を含むと117.8%の達成率となっております。

次に、9ページ、10ページ、「質の高い医療の提供」でございます。

手術件数は、全診療科の合計で623件となり、前年度と比べ22件の減となっております。また、分娩件数につきましては、79件となっております。なお、今年度よりオンライン母科学級を開催し、延べ66人にご参加いただきました。

次に、11ページ、12ページの主要疾病4疾病でございますが、がんにつきましては、地域がん診療連携拠点病院と連携のもと治療体制を確保しております。脳卒中につきましては、近畿大学奈良病院、奈良県総合医療センター等との連携のもと、発病後、できる限り早期に検査・診断・治療できる体制を確保しております。急性心筋梗塞につきましては、奈良県総合医療センターとの連携のもと、緊急の心臓カテーテル検査・PCIが24時間365日可能な体制を確保しております。糖尿病につきましては、かかりつけ医と連携のもと治療を実施しております。

また、患者満足度の向上のため、8月から、1階において、案内係を増員し、窓口案内を円滑に実施し、患者を迅速に誘導できるよう努めました。

13ページ、14ページの「医療における安全管理に対する取組」では、医療安全管理委員会を毎月1回、医療安全カンファレンスを毎週1回開催するなど、インシデント・アクシデントに関する事例の分析などを行い、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めました。また、院内感染対策として、院内感染対策委員会を毎月1回開催するとともに、ICTラウンドを毎週1回、感染勉強会を7月に開催し、院内感染防止活動に取り組みました。さらに、院内感染対策に係る地域医療連携といたしまして、Zoomにより合同カンファレンスに参加しました。

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、マスク、消毒液等計画的に備蓄を行うとともに、非常勤医師等を含む全職員への院内感染対策を徹底しました。新型コロナウイルス感染症疑似症患者の受入数は47人、陽性患者の受入数は1,788人となっております。また、PCR検査件数は3,541件、抗原検査件数は2,367件で、前年同期と比較するとそれぞれ大幅に増加しております。

また、面会制限を継続して実施していることから、お見舞いメールやオンライン面会も昨年度に引き続き実施しております。

15ページ、16ページの「地域完結型の医療提供体制の構築への寄与」でございます。

在宅支援機能の充実として、医療連携登録医は9月末時点で68施設、83名、協力医療機関連携施設は9月末時点で65施設となっております。

また、心不全・弁膜症の低侵襲治療講演会を6月に開催しました。

次に、17ページ、18ページをご覧ください。「周辺の他の医療機関との連携」で
ございます。

医療機器の共同利用として医療機関の紹介により、市立病院のMRIやCTなどを
利用していただいております。利用件数は、MRIが105件、CTが66件、内視
鏡が9件、エコーが6件の実績となっております。

紹介、逆紹介ですが、紹介率は24.9%、逆紹介率は14.1%、また、補足説明
欄にありますとおり、市内医療機関の市立病院利用率は67.4%となっております。

次に、19ページ、20ページの「救急医療の充実」では、救急受入件数が904
件、救急応需率は92.1%となっております。北和小児科二次輪番体制へ令和3年1
0月からの参加に向けて、北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会に出席し、当
番日の調整及び情報交換を行いました。

補足説明欄ですが、救急車以外で当直時間帯に来られた患者につきましては、ウォ
ークインとして集計し、1,494名を受け入れており、月平均249.0名となって
おります。

21ページ、22ページの「救急に対する人員体制」につきましては、1名の時間外担
当医と1名の常勤当直医の2名、外来看護師2名、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務
職員それぞれ1名の当直体制をとりました。各診療科専門医と臨床工学技士はオンコール
による当直体制となっております。

また、休日夜間の診療対応レベルは、CTやMRI、X線、血液等の検査及び緊急
入院に対応可能となっております。加えて心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査
及び手術にも対応可能な体制を整えております。

次に、23ページ、24ページの「小児医療の充実」では、4月に常勤医師をさら
に1名確保し、3名体制となりました。また、下半期の北和小児科二次輪番体制への
参加を目指し、北和地区小児科病院輪番体制参加病院連絡会にWebにより出席しま
した。

次に、「災害時医療の確保」でございます。24ページ補足説明欄にありますよう
に、8月に、消防訓練を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡
大により実施できなかったため、11月26日に実施予定です。

次に、「予防医療の啓発」でございます。疾病予防機能の強化として、市民の疾病
予防を目的として、医療講演会をオンラインにて20講座開催し、274名の参加が
ありました。また、各種市民健診につきましては、補足説明欄に記載しておりますよ
うに、3,599件となっております。前年同期と比較して286件増加しております。

次に、25ページ、26ページ、「市民参加による運営」でございます。

市民の意見の反映の仕組みとしまして、グループ全体で実施した令和2年度入院・
外来アンケート調査の結果について、ホームページに公表しました。さらに、ご意見
箱の内容に対して、対応が必要な案件は、迅速に対応いたしました。また、退院時に
市立病院独自で患者アンケート調査を実施しました。

26ページ補足説明欄にありますとおり、生駒市病院事業推進委員会と生駒市立病
院管理運営協議会について、記載しております。

次に、「環境に配慮した運営」でございます。市の環境マネジメントシステムのエコ
オフィスの取組として、資源ごみの分別回収を強化するとともに、院内での省エネ
ルギー化に努めました。

最後に、27ページの収支についてご説明します。

医業収入と医業費用を差し引いた医業利益は、計画のマイナス409万1千円に対

してプラス1億4,215万8千円であり、計画に対して、プラス1億4,624万9千円になっております。この要因としては、新型コロナウイルス感染症陽性患者の受入による影響です。医業利益からその他費用、医業外収益、医業外費用を差し引きした経常利益につきましては、計画のマイナス1億1,963万3千円に対してプラス5,307万1千円であり、レセプト対応保険等により、計画に対してプラス1億7,270万4千円となっております。

説明は以上です。どうぞよろしくお願いたします。

【小紫会長】 ありがとうございます。それでは、市から、評価についてお願いします。

【事務局（市）】 それでは、偶数ページに記載しています取り組みの評価・課題についてご説明申し上げます。

それでは、1ページ、2ページの「診療科目」は、専門外来につきましては、評価として、乳腺・甲状腺外来を積極的に周知したことで、患者数が増加し、がんの早期発見や専門的治療ができる体制が充実してきているとしております。

そして、課題として、今後も市内医療機関等への情報提供を継続的に行い、専門外来の充実をより一層図る必要があるとしております。

次に、3ページ、4ページ「病床数」では、評価といたしましては、7対1看護基準が引き続き維持されており、令和3年1月からは、新型コロナウイルス感染症患者受入病棟において、HCUの看護配置による手厚い看護体制が取られている。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況に応じて、陽性患者の受入病棟を増床し、積極的に入院受入を行うことにより、新型コロナウイルス感染症対応に注力しているとしております。

課題といたしまして、病床利用率が低い原因は、主に整形外科常勤医師の不在によるものと考えており、整形外科をはじめ不足する診療科の常勤医師の確保に引き続き努める必要があるとしております。

5ページ、6ページ「人員体制」の評価といたしまして、各職種の常勤職員を増員したことや就労支援の取組がなされていることをあげており、評価の7項目目ですが、前回の会議で会員の皆様から頂戴した非常勤医師の確保という意見を評価に入れさせていただき、常勤医師に加え非常勤医師を確保し、常勤換算数が常勤医師の計画値を上回るなど、人員体制の充実が図られているとしております。

課題といたしまして、入院医療を充実させるため、引き続き不足する内科、整形外科、放射線科の常勤医師、薬剤師や看護助手を確保する必要がある。また、医師の業務負担軽減等のため、医師事務作業補助者等をさらに確保する必要があるとしております。

7ページ、8ページ、「患者数」の評価といたしまして、1項目目ですが、LINE公式アカウントにおいて、お見舞いメールやオンライン面会の申し込みが容易にできる体制が整っているとしております。2項目目には、前回会員の皆様から頂戴したご意見である患者のニーズに合わせた低侵襲手術の実施を評価に入れさせていただきました。また、3項目目は、小児科の常勤医師を1名増員したことにより、ワクチン接種体制を充実することができたとしております。

課題といたしまして、ワクチン接種者数を除く外来患者数と入院患者数が計画を下回っており、引き続き、新型コロナウイルス感染症対応と一般診療とを両立しながら、病病・病診連携をより一層進める必要があるとしており、さらに、前回の会議で会員

の皆様から頂戴したLINE等広報手段の活用というご意見を課題に入れさせていただき、小児科の常勤医師を増員したにもかかわらず、入院及び外来患者数が伸びていないため、LINE等様々な広報手段を活用しながら、医療体制等、より一層市民へのPRを強化する必要があるとしております。

9ページ、10ページの「質の高い医療の提供」の評価といたしまして、2項目に8ページと重複する部分もありますが、前回会員様から頂戴したご意見である低侵襲な腹腔鏡下手術の実施をあげさせていただき、評価の3項目目としましては、一般診療と新型コロナウイルス感染症対応の両立をあげさせていただいております。

課題といたしまして、評価にあげさせていただいておりますが、今後も腹腔鏡下手術やダ・ヴィンチ手術等患者への身体的負担が少ない低侵襲手術をさらに推進する必要があるとしております。

引き続き、11ページ、12ページをお願いいたします。「がん」、「脳卒中」、「急性心筋梗塞」及び「糖尿病」につきまして、他病院と十分な連携が取れていることを評価とさせていただきます。

13ページ、14ページの医療安全管理に対する取組につきましては、評価として、主に新型コロナウイルス感染症に対する取組について、院内感染対策が十分に行われていること、屋外のプレハブ使用による感染管理の徹底、市内医療機関等のバックアップの機能を果たしていること、陽性患者用の病床数拡大や疑似症患者の受入病棟の整備を柔軟に行っていること、さらに、お見舞いメールの運用やオンライン面会の実施など市民の要望に応える取り組みを進めていることなどをあげております。

課題といたしまして、今後も新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えて、引き続き、県をはじめとする関係機関と情報交換しながら、院内における感染管理をより一層徹底する必要があるとしております。

15ページ、16ページ、「地域完結型の医療体制構築への寄与について」でございますが、評価といたしまして、入退院支援チームの活動や入退院調整マニュアルの積極的な活用により、入退院支援加算件数が増加しており、退院後も切れ目のないケアを提供できているとしております。また、メディカルソーシャルワーカーの増員に伴い、入退院支援加算件数が増加しており、退院困難患者の早期抽出、入院早期の患者の面談、多職種連携カンファレンスを実施するなど、入院早期から退院後の生活を見据えた支援が推進されているとしております。

課題といたしまして、前回会員の皆様から頂戴したご質問等を踏まえ、紹介件数が多い医療機関へ働きかけ、市内の医療連携登録医を増やすことで、在宅支援機能をさらに充実させて、地域の医療機関等との連携強化をより一層図る必要があるとしております。

17ページ、18ページの評価といたしまして、地域医療連携室の職員が地域の医療機関を毎月訪問し、診療内容等の周知の取り組みが強化されていることにより、MRIやCTの利用件数が増加するなど、地域医療連携の推進につながっているとさせていただき、また、地域医療機関との病病・病診連携が推進されたことにより、患者の状況や診療結果の報告、退院時に紹介元へ戻す旨の報告等が徹底されているとしております。

課題といたしましては、医療連携登録医を増やし、地域医療機関との病病・病診連携のさらなる推進を図るため、引き続き医師会への入会を目指す必要があるとしております。

19ページ、20ページの「救急医療の充実」では、評価といたしまして、コロナ禍においても、24時間365日救急患者の受入体制を整え、発熱患者を断らない方

針のもと、救急応需率は高い数値を維持し、地域の救急医療に対しての貢献ができています。また、小児科の常勤医師を1名増員したことにより、令和3年10月からの北和小児科二次輪番体制への参加に向けて体制を整備することができたとしております。

課題といたしましては、市内の二次救急医療体制で中心的な役割を果たすために、輪番体制への参加とともに、市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制のバックアップの充実をより一層図る必要があるとしております。

21ページ、22ページでは、評価といたしまして、当直可能な医師2名、看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員の24時間365日の救急受入体制が維持されているとさせていただき、さらに、24時間365日、CT、MRI、X線、血液等の諸検査及び緊急入院並びに心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術に対応可能な体制が継続されているとしております。

課題といたしまして、当直・オンコール体制に参加できる整形外科の常勤医師の確保に努める必要があるとしております。

23ページ、24ページ、上段の「小児医療の充実」の評価といたしまして、小児科の常勤医師を1名増員したことにより、入院診療及び救急医療に対応できる外来診療体制を整備し、令和3年10月から北和小児科二次輪番体制へ参加可能となったとさせていただき、さらに、ワクチン接種体制を充実することができたとしております。

課題といたしまして、オンコール体制をはじめとする診療体制を充実させ、地域の小児救急医療に対して、さらに貢献する必要があるとしております。

中段の「災害時医療の確保」につきましては、課題といたしまして、コロナ禍が収まった折には、地元自治会の協力を得たうえで、地域住民が参加する大規模な防災訓練を定期的実施する必要があるとしております。

下段の「予防医療の啓発」につきましては、評価といたしまして、2項目目でございますが、市民の健康づくりや疾病予防を図るため、コロナ禍においても可能な限りオンライン医療講演会を開催するなど、できる限りの手法を用いて、市民との交流、健康づくりの推進に努めているとしております。

課題といたしまして、前回会員の皆様から頂戴したご意見であるオンライン医療講演会の参加者数を増やす工夫について入れさせていただき、市民の健康づくりや疾病予防を促進するために、コロナ禍においては、オンライン医療講演会の参加者数を増やす必要がある。

また、コロナ禍が収まった折には、院内講演の充実に加え、できる限り自治会や学校、企業、各種団体・グループ等対象を広げて出張講座を実施し、より一層広域的に市民に啓発する必要があるとしております。

25ページ、26ページの「市民参加による運営」につきましては、1項目目でございますが、ご意見箱における患者や利用者の意見等を精査し、対応可能な案件については速やかに対応することで、市民満足度の向上につながる仕組みができていますとさせていただき、2項目目では、退院時に市立病院が独自で行う患者アンケートを実施することにより、患者の意見を集約し、患者満足度の向上に努めているとさせていただいております。

中段及び下段の「環境に配慮した運営」及び「院内保育所」につきましては、ご覧のとおりでございます。

以上でございます。どうぞよろしくご意見申し上げます。

【小紫会長】 ありがとうございます。それでは、冒頭に申し上げましたとおり、項目ごとにご意見・ご質問を受けたいと思います。それでは最初に1ページ、2ペー

目「診療科目」につきまして、ご意見・ご質問はありますでしょうか。

田中会員、お願いします。

【田中会員】 東生駒自治会の田中と申します。私どもの自治会では、市立病院への地元市民として身近な意見を自治会で集約の上、生駒市立病院管理運営協議会へ発言することができますということで、自治会で意見書というアンケートを作りまして、自治会員の皆様に配布させていただきましたので、ご質問させていただきます。

【小紫会長】 ありがとうございます。

【田中会員】 外来予定表を見ると、「高齢者が本当に必要とする腰や足の痛み等診察されたい整形外科が充実されていない。当科目の充実、外科手術の充実が不足と思う。」また、「眼科がないと思うが考慮すべきと思う。」「医師の皆さんの患者への対応はよいと思う。」「診察後、会計窓口の人員不足か時間がかかりすぎる。」などのご意見をいただいております。

【小紫会長】 ありがとうございます。院長に回答をお願いします。

【遠藤副会長】 わかりました。お答えした内容について、自治会の皆様に報告していただけたらいいのですが、整形外科の医師は常に探しております。手応えのないことではないのですが、何とか早く常勤医師を入れたいと思っています。月曜日と木曜日の2日はないのですが、火、水、金、土曜日は、整形外科の非常勤医師がおりますので、もし、転んだとか腰が痛いとかの時は、常勤でないから来てはいけないというわけではありませんので、来ていただけたらと思います。よろしくお願いします。

眼科は、非常に特殊な色々な機器が必要になります。まず、医療機器を調達することとか、先生も科としては多くありません。また、糖尿病とかでも非常に大切ですので、将来的には考えてみますが、すぐには難しいかなというところです。

外来の方は、人手が多い少ないという問題だけではないと私は感じているところもあって、システムのなところであるとか、他と比べて少し自動会計が少ないような気もしますし、そういうのも充実するとかですね。前から少し言っているのですが、受付のあたりが暗いのももう少し明るくしたいなと思っていますし、いろんなところを、今、手を付けようかなと思っていますところす。今のご意見を参考に考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

【田中会員】 よろしくお願いします。

【小紫会長】 自治会でこのようなアンケートをとっていただいたことは、とてもありがたいことです。病院近隣の東生駒自治会の皆さんからのご意見をいただくことはとても大切だと思います。アンケートをしたら、日ごろ思っていたことが届いたということで、今の遠藤院長先生のご回答を田中会員から、アンケートをご回答いただいた方にお伝えいただきまして、いい形でコミュニケーションが出来たらと思います。どうもありがとうございます。

それでは、1ページ、2ページ目の診療科目について他にご意見はありませんか。

最後にまとめて、全体にわたるご質問をいただく機会を設けますので次に行きたいと思っています。

3・4ページの病床数。こちらは何かございますか。よろしいですか。

それでは、5・6ページ人員体制。こちらは先ほども少しでてきましたけどいかがでしょうか。

それでは、森岡会員、お願いします。

【森岡会員】 人員体制の中で、目標としている平均患者数がなかなか増えない。コロナの時期でもありますし、それもあるのかなど。整形外科の常勤医師がいないということで、外来患者数が増えないと言われてはいますが、その問題も整形外科の常勤医師が決まれば、患者数も増えると思うのです。やはり整形外科という日常的な病気というか、ケガとか骨折とかそういうものに対応していくという観点からも、外来患者数を増やすというだけの問題でなく、総合的な病院としての役割で、整形外科の構築が急がれるのではないかと。もちろん、お忙しいし、難しいと、探しているとお聞きしているのですが、そういう観点からも必要になってくると思います。

合わせて、前から言っているのですが、外来患者数の目標を達成させるということが病院の経営、運営にとっても非常に大切だと思います。東生駒駅前というところに位置する病院の立地的な関係から、生駒市としても、市民のための市立病院ということをもう少し広げて、多くの方がこの市立病院に、生駒市民以外の方も利用することによって、患者も増えていきます。そういう中で、病院経営も含めて患者が増えるということが、病院のすべてを良くしていくことにつながるのではないかと。そういう意味でおっしゃられていたように、地理的に奈良県でいうと一番北西部ですね。前から言っていますが、大阪や奈良市に通勤している人たち、あるいは、私が知っている中でも奈良駅を降りてまたバス乗って帰るといった人がたくさんいる。そういう人たちが、この生駒市立病院を利用することによって、もっと便利というか、使ってもらえるというそのような観点を含めて、患者を増やすと言ったらおかしいですけど、生駒市民だけの対象ということではなくて、これは病院と市も含めてそういう発想、新しい形も含めて、外来患者数を増やすためにどうしていくのかという観点の検討が必要となってくるのではないかと。そういう点で、今すぐではなくてもそういう考え方を検討していく必要がある。

【小紫会長】 ありがとうございます。もっともなご意見だと思います。やはり、特に後半のご意見は、市立病院というのは、生駒市の方は地元の方はなかなか大阪の方に流れていると、そういうデータが前回ですかね、色々なレセプト等のデータを見ながら、傾向があったので。市立病院というのは、生駒の方が大阪まで行かなくても、地元で診療を受けられるようにできると、まずしっかりとそのことを考えていかないといけないというのは、市立病院の基本的なこととしてあるのですが、今、森岡会員がおっしゃったように逆に奈良市から大阪まで、途中、生駒を通りますというように、そういう方にとっても便利な場所にあるということで、そういう関連の方を来ていただくような。これも周知とかに関係してくるのでしょうか。そういうこともしっかりとやっていかなければならないというのはご指摘のとおりかなと思います。

よろしいですか。岡島会員、どうぞ。

【岡島会員】 整形外科の部分に「確保する必要がある」ということで、何回も確保するとあって、そしていまだに探しておられると。分かるのですが、人員確保に対する担当の方とか専門の方がおられて確保に努めておられるのか。人員確保のために努めている方法というのが、市立病院には具体的に何かあるのかどうかということをお

聞きしたいです。要は、小児科が強く発展していると聞いておりますし、これから先、診療として強みになっていくのかなと思うのです。

子どもの病気という点では小児科かと思うのですが、子どもがケガしたときに対するという部分での治療は、整形外科になるのかなと思っています。生駒市には整形外科を診療所でやっておられるところが多くあるのですが、私の子どもが中学生の時に、肩の骨を折ってしまいまして、完全に折れた状態だったのですが、診療所に行きますと、大変混んでいるところが多くて、時間がかかってしまいました。その日に治療ができず、そのまま一晩過ごして、西奈良中央病院に行きまして手術しようとなり、その日に入院して手術みたいな感じになっていくわけです。生駒市立病院も、市民の子どもたちが急に、それこそ折れてすぐにギブスだけでなく、手術してあげないといけない。全身麻酔して手術しないといけないとなっても対応できる病院に早くなって欲しいという気持ちがあります。

どういうプロセスで人員確保されているのか。教えていただける範囲でも結構ですので、よろしくをお願いします。

【遠藤副会長】 まず、森岡会員のご意見に対して、非常にありがたいことです。

個人的にまだ病院全体ではないですが、地域的なもの、皆が大阪に出ていってしまうというところで、月から金の診療体制では、やはりこれ以上の色々なことは望めないと。それでは土曜日にもっと検査をすべきではないか。土曜日の体制を充実すれば、土曜日に休みのもっと若い世代というか、今、市立病院に来られていない世代の方がたくさん来ていただけるのではないかと。色々な意味で、働き方改革はいいきっかけになるのではないかと。月曜から日曜までというか、あまり濃さを決めないで、休める日は何曜日になるか分からないような、そういう形の働き方改革で非常にいいだろうと。非常にいい方策ではないかと思っている次第です。本当に、考えたいところです。

岡島会員からのお問い合わせですが、当院の医師確保の方法は、ほぼ3パターンではないでしょうか。1つは、口コミでというか、医師の知り合い同士の話の中で出てくるところで入ってくる。もう1つは、紹介業者を使ってこられる人。もう1つは、グループであったり、大学であったり。今、働いているところにアプローチをかけたり、挨拶に行ったりして医師を確保するというおおよそ3パターンになっています。

病院の担当の職員は、専従ではないですけど、専任ではいます。毎日、何十人というか、何人かの医者と常に連絡を取るような者がいますので、この方法の中で、医師が確保されています。

最後に言おうと思っていたのですが、来年度から内科が2人、小児科がさらに2人、産婦人科が1人、入ってくるのですね。そういうことで、その、いわば科によってどうしても来やすい科というところと、後、タイミングとかもあるので。小児科はすでに5人体制ですね。私は、これは大きな1つのきっかけで、病院はまた変わるのではないかと思いますけど、整形に関しては、どこかのタイミングで。正攻法もしているのですが、やはりこれもタイミングがあって、1人入ってくると結構入ってくるのですね。さっきの小児科ではないのですが、1人入るまでは大変でしたけど、入るとポツポツポツと入ってきますので、整形も何とか。病院の整形というのが、確かに打撲なんかもそうなのですが、今、言われたように、手術を中心に考えないといけないので、誰でもいいわけではなくて、その辺もきちっとしないといけないので難しいなと言うことで。でも、期待はしています。

【小紫会長】 ほんとに長年の課題でありました脳神経外科の先生が来られて、小児科の先生も非常に増えています。最近、コロナ禍ではありますけど、非常にそういう改善された手厚くなった部分もありながら、これからの課題という意味では、先ほどからあります整形外科ということで、続いて取り組んでいきたいと思っております。

他、人員体制、スタッフの数についてよろしいでしょうか。

それでは、7・8ページの患者数の方ですね。こちらの方、何かございますか。

磯部会員、どうぞ。

【磯部会員】 課題にあります広報手段についてお聞きしたいのですが、病院だよりを600部、毎月1日に発行しているのと、医療講演会とLINEによるアナウンス等行っていると書いてあるのですが、課題にも書いていますように小児科の入院および外来患者数の伸び悩みもあるかなと思いますけど、広報活動について、他の方法はないのかというのが気になるのですが、いかがでしょうか。

【遠藤副会長】 広報活動という点では、印象としては、医療講演とか地域との触れ合いが一番、今までの経験の中では患者数が増えていくと。来院されたことない人が多いです、当院の印象としまして。余談になりますが、今回、コロナの患者を300人くらい診ているのですが、ほとんどが新規患者です。生駒で雇っていないのかと思うくらい。そうではなくて、本当に病院がここにあるのに、他の地域から来ているというのもあるのですが、全体に若い患者も多いということもあるのでしょうか。新規患者、外来含めてですね、そういう方が本当に多いです。300人のうち、下手したら9割くらいがそうじゃないかなと思います。ということは、今言われたように知られていない。

先ほど小児科が5人になるとお話ししました。5人の小児科医がいる病院は、そうそうないですからね。それもたぶん知られないまま終わってはいけないので、今、言われたように、LINEやツイッターとかあるのでしょうか。色々なメディアを使いながらやっていく。ただ、医療は難しくて出せるものと出せないものと色々あるので、その辺の検討をしてからやっていこうかなと。磯部会員が言われたように知られていないということは、今回のコロナで実感しています。

【小紫会長】 市の方で情報発信をやっていることはありますか。

【事務局（市）】 市では、ホームページや広報を出させていただいたり、ツイッターでそれぞれのイベントとかを出させていただいたりしています。この管理運営協議会でご意見いただいた中間報告や実施報告の内容を広報に特集という形で掲載させていただいて、市民の方に知っていただくということをしております。

【小紫会長】 私は生駒市の情報を誰よりもスマホで見ている1人だと思います。長年の課題であった脳神経外科の常勤医師が入職したということも、どこかで発信されているのかもしれませんが、もっと知ってほしいというか。広報でも、コロナとかコロナワクチンとかの話ばかりになってしまっているところもあるのですが、それでもそういうところを発信が我々も今、話があったようなことはしているのですが、ちょっと不十分かなというのは思います。脳神経外科は待望の先生が来ていただいたということなので、我々もSNSとかで出していくというようなことを。また、広報も年に1回くらいは大きな特集が、年に数回くらいは半ページくらいの特集はあ

るので、そういうところでしっかりと周知していきたいと思います。

あと、コロナが落ち着いてくると、生駒市は市内の色々な集まりが自治会単位で50人とかあるのですが、市職員もよく出前授業に行っています。先生方も大変忙しいですけど、講演会活動をやっていただいておりますので、50人とか100人とか集まる自治会もあります。

知ってもらわないと。知らないお店の暖簾はくぐりにくいということもあるので。一度足を踏み入れたことがあるところというのは行きやすいというのは、人間の心理でもあるので、元気な時に市立病院のことを知っていただく。そもそもこういうところに診療科の先生がいるということで、病院では健康フェスティバルを、コロナ前にはやっていましたけど、そういう機会はどんどん知っていただく手法としてやっていきたいと思います。

他にありますか。それでは、佐野会員お願いします。

【佐野会員】 今のPRの仕方、富山市ではツイッターでキャラがつぶやいています。生駒市は「たけまるくん」がいますよね。「たけまるくん」が、毎日つぶやくとか、あとYouTubeでキャラクターが出て踊るとか。生駒市が、市立病院が小児科とか産婦人科とか子どもを出産するのに育てやすいところですか、そういうのを大々的にやってもおもしろいのではないかと思います。

【小紫会長】 生駒市は、広報紙もたぶん全国で読んでいただいている方かな。SNSの発信も以前に比べるとだいぶやるようになってきています。なので、今みたいな、「たけまるくん」という、私は大好きですけど、ご当地キャラクターランキングでも何千何位みたいなしかないけれど、そういうツイートでしっかりとさせていただきたい。市立病院のキャラではないですけど。とにかく、フェスティバルみたいなことに子どもにも来ていただいて、市立病院というのが、1回そういうので入ると入りやすいということで。病院に来ないことが一番いいですけど、どうしても何かがあったときに、市立病院へとっていただけるようなことがあれば、そういう親しみやすさみたいなものを経験していただける工夫はしていきたいなと思います。ありがとうございます。

それでは、中川会員。

【中川会員】 今回も小児科が5名になるということで、とても充実していただいているのですが、院長先生がおっしゃったように、やはり入りにくい雰囲気があります。聞いてみると、私も一緒に小児科のところへ行ってみると、受付が楽しい雰囲気になっているとか、少し環境とか雰囲気で入りやすいというのが、1つあると思うのですが、やはり、最大の広報は口コミだと思います。母親のね。例えば、歯医者に行くにしてもあそこが良かったからと聞いて、それこそ大阪まで行ってみたということがあるので、やはり口コミが多い。先ほどのSNSで、子どもが親しみやすいキャラクターの紹介とか、意見箱も設置されているということで、それを使いながら、部屋の雰囲気とか治療の方法も詳しく説明していただけるとか。先生がたくさんいらっしやっ、いいところを、親が口コミで言い出すように、やはりそれは、色々な病院の中の環境や、先生方のこれからの治療の先生方の態度みたいところが伝わってくるのかなと。そういうのを大事にさせていただいて、来やすいところに。せっかくいいところにあるので。また、今思っていたいただいているお年寄りや子どもたちが、一番初めに頼りにできるところという病院にさせていただけるように。私も整形外科が何で必要かな

と考えたときに、おっしゃるように、子どもが骨折した。また、レントゲンも必要だと思うので、そういうところに、タイミングを見ていただいて、いい口コミが親の言葉が出てくると、どんどんあちこちの病院でもここがいいという話が出てくるので、大変でしょうけど、そんな優しい、行きやすい、小児科やお年寄りの行く病院になればいいなと思いますので、お願いしておきます。

【小紫会長】 ありがとうございます。

では、森岡会員をお願いします。

【森岡会員】 病気になった時に、アナログ的な発想から見るとネットで探してというのではなく、あそこの吊り広告とか、どこかで何か見たと。看板って、目につくところに、意識をさせるという1つの広告。何を言いたいかと言うと、先ほど、遠藤院長が言われていたみたいに、病院の宣伝は難しい。何でもかんでもというわけにはいかない。そういう意味でも、「ここの病院の売りは何なのか」と私的に考えると、「いつでも来てください」と。病院の方も大変だと思いますけど、いわゆるウォークインという形の「いつでも来てください」と。「病院をあけて待っていますよ」という、あれこれじゃなくて、生駒市立病院はそういう形で受けていますよということと思うのです。

「救急患者を断らない」というのは、1つの売りですよ。そういう意味での宣伝をね。例えば、私であれば、近鉄電車の看板にあれこれじゃなくて、「生駒市立病院は、救急患者を断りません、いつでも来てください」とそれだけの宣伝でも、もし本当にその困ったときに、どうしようかと思ったときに、電車を降りて行こうかという気持ちになってくれるのではないかと。

それが、ここの生駒市立病院の売りというのがあると本当に素晴らしいと思うのです。それを宣伝することは、何かの時、急に困った時、それがやっぱり人の意識の中に、あれを見たという意識の中に現れるということ、1つはあるかなと。そういう意味では、宣伝というのを、1つの考え方として手段があるということ、色々な形で検討する必要があるのではと思います。

【中川会員】 1つ言い忘れていて、今は共働きの保護者の方がたくさんいらっしゃる。特に困っているのが、病気の時に子どもたちをどうしたらいいかというもので、近くに祖父母がいる場合は何とかありますけど、いなかったら。病気の時の子どもたちを預かるような何か取組ができるのであればしていただけたら。これは、なかなか施設の関係で難しいでしょうけど、どこか紹介するとか、そんな関係のことが出来たら、共働きの保護者が助かるなと思いましたので、できればお願いしたいと思います。

【小紫会長】 病児保育は、生駒市でも取り組んでおりまして、市立病院でも検討していないわけではないのですが、今は阪奈中央病院とたけつな小児科クリニックなどいくつか病児保育を受けてくださっているところはあります。ニーズはすごくあるのですが、今、受けていただいているところで、本当にインフルエンザがすごく流行っているという特殊な時期を除いて、概ね対応できているのですが、ただ、市北部の方であるとか市南部の方に近くにあれば助かるという潜在的なニーズはあるかもしれない。やはりもっとニーズが増えてきた時に、市立病院もそうですし、他の医療機関と連携してということはいくらと考えるべきかとは思っています。

先ほどのPRの話は、すごく大切に生駒市としてもしていけないといけないことが

あるので、そこはしっかりと我々も認識しながらしていく。

森岡会員がおっしゃっていたこともそうですし、あと、私はそれこそ初見の、初めて引っ越してきたばかりの頃とか、子どもが産まれたばかりの頃に、結構ネットで調べている中で、市立病院のWebサイトを見ていたら、医師の先生方の写真が以前載っていたかと思うのです。色々な理由で、なかなか写真を載せられないというものがあるのでしょうか。先生方の写真が載せられるのであれば載せてもらえたら、安心感があるかな。お名前だけですけれど、以前は顔写真が載っていませんでしたかと思ったのです。

【遠藤副会長】 この前、写真を撮りましたので、みんなに聞いてみましょう。

【小紫会長】 ありがとうございます。一市民としての意見です。市立病院のホームページをまた見ていただいて、このようなご意見もいただけたらいいと思います。ただ、今、ツイッターとかは、市立病院が熱心にやっけていており、結構、LINEで登録しておくだけで、市立病院の情報が取れるので大変助かっています。そういう意味での情報発信は頑張っていていただいていますので、ありがたいなど。また、いただいたご意見で改善していくところは改善していきたいと思っております。

【遠藤副会長】 今のお話は非常にありがたくて、実は、コロナの前に、1車両しかないのですが、近鉄電車の車内広告をしていたのです。コロナが拡大してあまり電車に乗らなくなったようですので、終わってしまいました。東生駒駅の時刻表を刷って、生駒市立病院の名称を載せていましたが、今は時刻表を使っている人がいないので、終わっています。

子どもの病児保育という話につきましては、それも立ち消えしてしまったのですが、母親が病気になっても子どもがいると病院に雇れないということがあって。例えば検査。若い女性でも重大な病気にかかって検査に来るけど、子どもを預けられないという人たちがいると困るということで、院内保育所があるので、そこを活用できないかなという話をして一時期、取組をしていました。コロナのせいにするのもなんなのですが、コロナが原因でかなり病院の体制を変えました。例えば、面会を完全にストップ。それこそ、手術でも、手術の説明を全部電話でという形になって、子どもを受け入れることも難しくなりました。もしこの状況がよくなれば、先ほどの病児保育も逆にご家族の病気で預けるところがない子どもたちに、少しの時間使うようにできればと個人的には思っていますし、実際、少しやっていたこともあるので、また、そういう制度も考えてみたいと思います。

【小紫会長】 ありがとうございます。私、自身も勉強になりました。

【岡島会員】 ホームページのことですが、いつの間に新しいのに変わったのかなど。前と全く変わっていますよね。一番下のバナーのところ、形成外科と産婦人科がメインでありますけど、何かお力を入れているためにそれをされているという理由でしょうか。

【事務局（指定管理者）】 先生方が特に別のサイトで運営をできるような、もっと詳しくPRをしたいということで、積極的な先生方はあのような形でとりあげさせていただいています。

【岡島会員】 ありがとうございます。わかる形で色々やっただけで、LINEも入っているのですが、例えば、「今日はとか、今月は急にお休みされる」とか、そういうのもLINEに流れるといいなと思っているので、また何か考えていただきたいと思います。あと、これはお金がいる話ばかりかもしれないですが、市北部に住んでいる知り合いに「小児科でいいところないの」と聞かれたので、「市立病院があり、力を入れている」と伝えたのですが、残念なことに「どこそれ」と言われてしまいました。生駒市に長いこと住まれている方ですが、どこそれと言われてとても残念な思いをしました。結局、結構急に子どもが、誰でもそうなのですが、急に病気に罹ってすぐに車を走らせていきたいときに、アクセスに対する道路表示が少し薄いのかと思っています。この前、島根県出雲市内を車で走っている時に、いたるところに看板があるのです。で、迷うことなくスイスイと病院に行く予定もなかったのに、病院にたどりついてしまいました。

生駒市立病院も市内に、別に北部までとは言いませんが、この近くに来るともう少し大きくとか、近鉄東生駒駅でも、書いているのは分かるのですが、改札を出たところにでもこっちですとわかるような表示がないかなとか。例えば、電車に乗っていても壁は見えていますが、「何の建物か」という状態ですので、もう少し、アピールできるものがあればいいのではないのでしょうか。

また、小児科も力を入れておられるということであれば、来年のクリスマスにぜひ、飾りでピカピカさせてみたり、子どもが「きれいな雪だるまのところに行きたい」とか何か工夫がなされたりするものがないかなとか。広報に関しては以上ですので、また何かできることがあれば、時間をかけてでもやっていただけたらと思います。

【小紫会長】 ありがとうございます。全部、なるほどと思って聞かせていただきました。標識の話は、だいぶ前ですけど、やはり同じような意見もありました。周りの環境とかあるのかもしれませんが、そういう視点を入れたらと思います。特に、電車でちょっと生駒でとなった時に、市北部の方は電車で来るのはちょっとしんどいなというのがありますので、車で来られる方への配慮ができたらと思います。ぜひ、そのことも検討できたらと思います。

次、9から14ページまでが、質の高い医療の提供ということで、まとめてご質問ありますか。

次、15から18まで地域完結型の医療体制構築への寄与でございます。こちら何か質問ございますか。

磯部会員、お願いします。

【磯部会員】 課題にあります在宅支援機能をさらに充実という件ですが、もともと病院の事業計画にあります。気になるころとしまして地域医療機関への医療教育プログラムの提供ということで、当初の病院計画に医療機関、救急隊との定期勉強会を年2回実施するとありまして、令和3年度の中間報告におきましても1回、心不全・弁膜症の講演会をオンライン含めて6月にしましたと。また、下半期に新生児蘇生法の講習会をすると記載されているのですが、現状の地域医療に関して、教育プログラムですが、私は大阪の訪問看護協会の知り合いの方がいまして、話をされていて、「訪問看護の運営をするのに何が難しいか」と聞いたことがあるのです。その時に、「教育と採用です」と言われていました。採用の方が訪問看護に来られる方が少ないということと、その病院でしたら教育とか研修とか、あと看護協会の研修とかあるのかなと思

うのですが、訪問看護ステーションの中では、なかなか皆さん、1日何件というように看護に行かれますので、在宅の方に行かれるので出来ないという話がありました。結局、教育プログラムの充実はどうしているのかなと気になりましてお聞きしました。何かご意見とか考えがありましたら教えていただきたいです。

【遠藤副会長】 当院は、在宅医療部とか訪問看護ということはできません、今は。なので、今のお話の中の在宅に携わる看護師の教育プログラムというのは、実際に動いていないと私は思います。院内の教育プログラムは、非常に多くあります。院内の患者に対する教育プログラムはたくさんあるのですが、まだ、在宅医療というのは、生駒はこれから取り組んでいく1つの大きな課題だと私は思っていますので、この教育も含めた取り組みもしていくと思っています。

【小紫会長】 基本的には、生駒市立病院は在宅医療をしていただく診療所の先生の患者が増悪しましたという時に、バックアップしますよという中で地域支援をしていくということがまずは基本的な考え方でございます。そういう意味で在宅支援機能の充実ということなんかはそういう文脈で書いているということと、その下にある地域医療の教育プログラムというのは、関係ないわけではないのですが、一般的な話としてのプログラムということで、在宅支援みたいな話がテーマになることもあるかもしれないですけど、そこも直接つながってくるというものではない。在宅医療は今後、増えていく傾向にあるのは間違いないので、その時の増悪時の対応であるとかは、しっかりと頼っていくと同時に、何かそういうことを市全体として取り組んでいく中でそれ以外に果たすべき役割があれば、それは確かに考えていくということになるのかなと思っています。

【磯部会員】 おっしゃることは十分に分かっているのですが、ここに記載している地域医療機関への医療教育プログラムに関して、例えばですけど、年に2回程度というのを、私はさっき訪問看護ステーションにしてほしいとかそういうのは別に、ちょっと置いておいて。地域医療機関への医療教育プログラムをいわゆる生駒市の基幹病院である市立病院がどうされるのかということで、そのうちの1つが地域医療機関への医療教育プログラムの提供ということがあるのかなと認識しています。認識の中で年2回程度であれば、勉強会をしているよというのが記載されているのかなと思っています。ですけども、それは、平成27年11月から始まって以来、内容に変化がない。変化というか年2回というプログラムの内容に変化がないなということで、先ほどある在宅医療支援機能のさらなる充実ということを考えるのであれば、年3回、年4回するよというように数字上の問題ではないと思うんですけども、何かしらのことがあるのかなと思ったというだけです。

【遠藤副会長】 先ほど言っていたように訪問とかそういうことではなくて、当院の教育プログラムの内容というのは、看護師たちが色々なACLSなどいろんな緊急対応や、または、何かを発見するための色々な教育プログラムをしているということがあるわけです。それはなぜ必要かということ、先ほど言われたように教育が大事と。要は、同じ看護師が行っているわけではないけども、入ってくる人たちがいる程度の年齢になると、訪問や在宅医療が維持できないということであれば、それを維持するための教育ということで、2回か3回ならいいのか4回ならいいのか分かりませんが、病院としては、できる限りしていくということになると思います。

何が一番大事かという現場のニーズだと思うのですね。ですから、例えば年に2回やっていてそれで満足な人たちが満足な環境であればそれでいいのですが、どんどん望むことですが在宅医療が増えていき、訪問看護が増えていった中で、「2回じゃ全然足りないよ」ということであれば、どんどん回数が増えていくことだと私は思っています。2回にこだわっているわけではないです。

【磯部会員】 内容は理解しました。教育とか認識の話になるのですが、先ほどの話で出ておりました、例えば、「生駒市立病院はどこにあるの」と、市北部の人は知らないという話がありましたけど、昔、橿原市から看護師が来られて。知り合いの看護師が初めて電車で来られたのですが、病院があるのを知っているのかは分からないですけど、「東生駒の電車乗ったら見えたわ」と言われたのですね。何が言いたいかというと、たぶん、彼女は認識上で病院がそこにあるということで、医療従事者なので病院か診療所か分からないけど、すごい気になるというか、気づくということなのかなと思っています。

先ほどの話で市北部に住まわれている人で病院に来る人は、病気になった時くらいしか行かない人が多いから、市民としてのここにも入っている在宅の話も含めてですけど、病気とか怪我に対する意識が低い部分もあるのかもしれない。ですので、それをどう払拭していくのか、どういうようにして健康意識を高めていくのかをアピールしていく場が必要ではないかなと思っています。それは、オンラインでもありますように医療講演会とかもそうなのかもしれないですけど、そういうことを思って質問させていただきました。

【小紫会長】 ありがとうございます。

山上会員、お願いします。

【山上会員】 小児科の医師が増えても患者が少ないという話があったのですが、おそらく今、コロナで感染症が増えているということで、それはもうしょうがないのではないかなと思っています。コロナに関しましても、市立病院がなければおそらく乗り越えられなかったのではないかなとお世辞ではなく思っております、本当に市民の皆さんは気づかないと思いますけど市立病院がなければ皆さんおそらく橿原市、大和高田市とか桜井市の方で入院しないといけない状況でした。その辺は、本当にありがたいことでお礼を申し上げたい。

1つ病診連携のことなのですが、紹介の時に、患者さんがおられて私が紹介の電話をするのですが、外来中は非常に時間を取られまして。近畿大学奈良病院もそうなのですが、地域医療連携室の方が直接、患者さんに連絡をいただくと非常に助かります。病診連携の方には非常にお世話になっているのですが、そういう体制も考えていただいたら非常にスムーズになりますので。患者さんの連絡先を聞かれてそのうえで地域連携室と患者で入院の調整をしていただくと非常にありがたいので、お考えいただきたいです。

【小紫会長】 具体的なお提案をありがとうございました。検討したいと思います。他、18ページまで何かございますか。なければ、19ページから22ページの「救急医療」で、何かご意見ありますでしょうか。

【磯部会員】 20ページにあります課題の中で、小児科の北和二次輪番体制の件で

すが、10月から当番に入ったという記載がありますが、今で2か月経ちましたが実際に受入がどうだったかというのはありますか。患者数であるとか。

【遠藤副会長】 今、数字は持っていないのですが、ついこの間、夕診帯というか22時くらいまでの話ですけど、その間に6台の救急車が入ってきました。やはり、日にもよるのでしょうけど、輪番の当番の日には、ほぼほぼ北和地域の救急が全部来ますので、そういうことで対応して、そのうちの3人が入院していました。ですので、輪番の当番日が、今は月に1日しかないですが、これから人数が増えてくると当番日も増えていくのだろうと思いますし、そうすると入院もどんどん増えて、小児科というものがしっかりと立ち上がっていくというのがあります。実際、入院数がここには出ていませんが、小児科の入院が増えています。

【磯部会員】 お話がありました月に1回というのは、2人だから月に1回という認識でよかったですか。北和でどのくらいの病院で、何人で、どう回しているのか分からないですけど、30日のうちの1日しか生駒市立病院が診ていないのだなど。それは、先生が2人だからという認識でいいのか、5人になったら3回、4回になるよというように、結局30日のうちの1日しか仮に生駒市民が生駒の病院に入院するとか、救急で来た時にあたらないのかとなったら、どうなのかなという認識ですがいかがでしょうか。

【遠藤副会長】 そこまで話はしていないですけど、今度、小児科の先生とも話をしようと思っています。輪番の当番日だけが救急対応をする日ではないです。ですから、今はさすがに3人だと毎日遅くまでとか当直とかは難しいと思います。小児科が一番バーンアウトするので有名な科です。頑張る人は頑張るけど、頑張りが過ぎてダメになってしまう科です。ですから、今は3人で月1回は輪番の当番ですけど、輪番の当番以外にもこれからアピールをして、夜間もある程度充実して、5人になればもっと充実して。

例えば、診療所の先生が夕診をやっておられますから、熱が出ている。食べられないので入院をお願いしますという時のバックアップの入院として、この地域だとたぶん近畿大学奈良病院くらいしかないと考えています。やはり、少しでも参加して生駒のお子さんが遠くに、奈良県総合医療センターもいっばいで入れないと市立奈良病院とかもっともっと遠くまで行かないといけない。それを生駒で支えられるようにしたいと思っています。ですから、輪番の当番が増えることと役割が増えることは少し違うので、輪番は全員で割っていますので10何回もしているところはないですし、1日だけという考え方もありますけど、それこそ3回くらいするのであればそれでいいのかもしれないが、やはり普段から診られるほうが大事かなと思います。

【磯部会員】 わかりました。

【小紫会長】 ありがとうございます。他に22ページまででありますでしょうか。それでは、23・24ページにつきましてありますでしょうか。佐野会員、どうぞ。

【佐野会員】 先日、友人がワクチンを2回接種したのですが、コロナに罹る可能性があるから怖いと言われていたので、遠藤院長が言われたレムデシビルのこととかを説明したらホッとされていて。東大阪に住んでいるんですけど、何かあったら行こう

かなと言っていました。

講演会とか色々やってらっしゃるのですが、そういうところで情報を公開して、「今、色々新しい変異株も出ていますが、気を付けるところは気を付けないといけないけれど、安心できますよ」「今はこういう体制ですよ」と流されるのもすごくいいかなと思いました。生駒に住んでいる人たち、2, 3人くらいに言ったのですが、皆さんすごく安心されていましたので、とてもありがたいなと思いました。

【遠藤副会長】 今のことに合わせて、コロナについて皆さんにお話ししようと思っていました。カクテル療法ですが、非常によく効きます。ひどくなる前に打てばあまり後遺症もなく治ってしまうのです。我慢すればするほど治らなくなるので、本当に早く診断することが大事だと思います。第6波がくるかどうか分からないですけど、次はカクテル療法を外来でする形になってきています。今、診療所の先生もそうですし、私たちも今検討しています。

それから、カクテル療法に関していうと感染者だけではなくて濃厚接触者及び一緒に住んでいる方も打てるようになりますので、かなりの数の方が打てるようになります。入院では出来ませんので、外来で打つようになると思います。

60人くらいをやってきて、まとめてみると、まだ答えは出ていませんが、だいたいこのことが出てきています。カクテル療法をすると半数は熱が出ます。熱がない人は熱が出たり、熱が出ている人は、さらに熱が上がったりします。熱がある人が必ず上がるかという、まとめてみるとそうではなくて、同じ割合で熱があっても熱がなくても熱が出る人という割合は変わりませんでした。ずっと探していくのですが、最後、何が違うかと言うと性別でした。男性は、女性の倍、熱が出ます。それだけは、確実に出ました。年齢も80歳以上の方は出ないです。70から80歳になるとかなり確率は低いのですが、60歳以下は、そんなに年齢差がなく熱が出ます。若いから出るというものではないです。ただ、ロナプリール自体があまり若い方に打てないので、50歳以上の縛りがあるというわけではないのですが、重症化リスクの1つですが、打っていますのでどうしても高齢層の人が多いのですが、でも確率としては、60歳代で次が50歳代となっていました。

これから外来で打つときは、女性はだいたい熱が出ないかなと。男性はだいたい熱が出て一番高い方は40度くらい出ます。それでも次の日または最長でも、次の次の日に下がるので、解熱剤を持って帰れば入院しなくても治っていくのではないかと期待しています。

ですので、今後はコロナのような症状、コロナが流行ってきた時には、早くに病院へ来ていただいて早く治療をする感覚でいかないといけないのだろうなと。我慢するというのではなく、それがプラスになるとしても先に治療すれば早く治るということです。予防的な投与もできるので、一緒にいる人たちも今まで以上にならなくていいのではないかと思います。それを広報していけないといけないのかなと最近思っていますので、ホームページに出せば出す。ただ、出していいのかも分からなくて難しいのですが、政府も一生懸命やっていますので、1つのチームだけ発信していいのか分からないですが、個人的な当院での経験を研究してみましたということで、コロナの話をししようかなと思いました。ありがとうございました。

【佐野会員】 ありがとうございます。とてもありがたいお話でしたので友人にも伝えておきます。

【小紫会長】 市立病院は本当に頑張っていたいただいているので、手が足りないと思うのでそのあたりの発信の仕方を、今日のメインテーマになります。発信の仕方ということで、市もできることがあると思いますので、しっかりと考えていきたいと思えます。他に何かありますでしょうか。岡島会員、どうぞ。

【岡島会員】 医療講演会に関しまして、昼間に多くZoomでされているかと思えます。小児科も毎回話に上がっているのですが、充実している中でぜひ、お子様向けに。お子様向けといっても子どもが聞くわけではないのですが、保護者の方が聞かれる「子どもに対する救急の取扱い」とか、「子どもの病気について」とかを講演していただければと思えます。また、可能であれば、時間的に仕事が終わってから、夜の方がいいとは思いますが、それもなかなか難しいと思えますので、オンライン講座を含めてですけれど、何か権利関係とかがあれば別なのですが、アーカイブという形で3日間だけ残しておける仕組みを作っていただくことが出来れば、LIVEで聞けなかった方もその日の夜に聞けるのかなと思えます。直接、質問はできませんけど、聞けなかったという方も視聴ができる。こういうのができるような方法があれば願ひできたらと思えます。

【小紫会長】 ありがとうございます。それでは他、よろしいでしょうか。

続いては25・26ページの市民サービスについて何かありますでしょうか。最後、27ページの収支のことですがご質問があればいかがでしょうか。

それでは、一通り終わりましたが、最後に何かご意見・ご質問等ありましたら願ひします。

【遠藤副会長】 先ほどから出てきていましたが、来年の当院の医師は内科2人と。今年外科医が1人増えました。そして、腹腔鏡下手術が倍になっています。乳がんの専門医も来られるので、また乳がんも増やしていけると思えます。後は、小児科も5人になって、輪番も参加しましたし、配信も充実できるようになりましたし脳神経外科も1人入りました、産婦人科も1人入ります。来年4月から非常に充実した体制になって、先ほどから出ている整形外科さえ入れれば、非常に、かなりの病院の体制を取れるのではないかと。それに加えて、医師会に入会させていただいて、地域と取り組んでやっていこうと思っています。

この協議会で言われている課題もどのくらいが改善されるかと期待しているところです。ただ、今年度に関しては、コロナ対策が続きます。そういう意味では病院職員全員で頑張っていますし、本日の意見を参考にさせていただいて、PRに関しては三密とか関係なく取り組めるものが多いので、そちらの方を何とか来年度までに。来年度はそのPRのもと充実した人員でやっていこうと思えますので、これからもよろしく願ひします。

【小紫会長】 ありがとうございます。最後になりますが、会員の皆様からたくさんご意見をいただきましてありがとうございます。毎回ですけど、私自身、この会は勉強になります。整形外科の話とかPRの話とかございましたけど、本当に山上会員がお話されていましたが、市立病院はコロナ対応で非常に先駆的かつ熱心に対応いただいています。その点につきましては、市立病院のことを市がどこまでPRするのというところで、しすぎると手前みそになりますけど、やはりそこはしっかりと市民にも伝えるということが、市も含めまして必要なことだろうと思っております。そう

いったところで、市立病院の次のステップが見えてくるのかなと思っておりますので、今日いただいた意見をしっかりと色々な病院運営に、また行政に活かしながら、冒頭申し上げましたように、令和4年度の事業計画を次回に検討していくということになります。我々も今のご意見を盛り込んでいくつもりでございますけど、忌憚ないご意見をいただければと思っております。

それでは、報告書につきまして特に中身を修正するというご意見はなかったようですので、本日の案を確定版とさせていただきます。12月の市議会がもうすぐ始まりますので、ご報告をさせていただきたいと思っております。

それでは、何か事務局からありますか。

【事務局（市）】 次回の会議の開催ですが、来年3月に令和4年度の事業計画についてご意見をいただく予定をしております。よろしく願いいたします。

【小紫会長】 前回、会員の皆様からのご意見を資料に盛り込むということを事務局に対応していただいたつもりでございます。次回以降もそういった形で盛り込みつつ、しっかりとご意見を活かした運用をしていきたいと思っております。今日は、長時間どうもありがとうございました。

— 了 —